

CCPM+操作説明書

注意

- 本書は、CCPM+バージョン 2.1 の説明書です。
- CCPM+バージョン 2.1 のデータ形式は、追加機能のためバージョン 2.0 以前の CCPM+のデータ形式と一部に違いがあります。

2010年5月

MSI 株式会社

目次

1. はじめに
 - 1-1 CCPM+が稼動するシステム環境
2. プロジェクトスケジュールを作成する
 - 2-1. タスクネットワークの作成
 - A) 新規プロジェクトを起動
 - B) MS-プロジェクトの省略時値の設定
 - C) テンプレートの保存
 - D) タスクデータの入力
 - E) サマリタスク、終端マイルストーンの設定
 - F) リソースの平準化の実行
 - 2-2. クリテリカルチェーンの識別
 - 2-3. バッファの挿入
3. プロジェクト計画の確定
 - 3-1. プロジェクト計画を最適化する
 - 3-2. プロジェクトスケジュールの確定
4. 実行
 - 4-1. プロジェクトの実行
 - 4-2. リレー走者のようなタスクへの取組
5. タスク状況の把握
6. タスクの実行指示
7. CCPM+の報告書
8. CCPM+の導入手順
9. 終りに

第1章 はじめに

本書は、CCPM+の機能と操作に関する資料です。

この資料は、読者が、事前にプロジェクトスケジューリングで頻繁に使用される用語と、スケジューリングの基本について熟知していることを前提としています。

プロジェクト管理全般に関する知識、より詳細な手順と用語の定義、PMIのスケジューリングの規則やガイドについては、PMBOK™ ガイド<Project Management InstituteのProject Management Body of Knowledge >を参照してください。

また、MS-プロジェクト®の操作方法に習熟していることを前提としています。

CCPM+は、プロジェクトの計画作成とプロジェクト実行の分野をカバーしています。

しかし、プロジェクトを成功裏に完了するためには、効果的なプロジェクトマネジメントの知識が必要で、それには、その他の知識も不可欠です。

- CCPM+の開発者であるローレンス-リーチ氏については、下記のURLを参照下さい。
<<http://www.advanced-projects.com>>

第 1 - 1 章 CCPM+が稼動するシステム環境

□ CCPM+は 下記のシステム環境でご利用頂けます。

- MS-プロジェクト / 2003 または 2007
- Windows-XP、Vista または Windows-7

□ CCPM+をVista-PCでご利用になる場合の注意

CCPM+導入手順の最後に「インストールの期日」を Vista<または Windows>に記録しようとしています。しかし、Vista の省略時の設定が、この「記録」を許さないようになり、設定できません。このため CCPM+を動作させると「導入されていません」というメッセージが表示され、動作させることができません。

CCPM+を、Vista-PC で正しくインストールするために、以下の手順で「省略時の設定」を変更した後、改めて CCPM+の導入を行ってください。

◆ 操作の手順

- ① 既に導入済みの CCPM+を 下記の手順により “アンインストール” します。
- ② アンインストールの操作。
 - A) コントロールパネルから “ユーザアカウント” を選択します。
 - B) ユーザアカウントの変更で、 “ユーザアカウント制御の有効化または無効化で “ユーザアカウント制御<UAC>を使ってコンピュータの保護に役立てる” のチェックを、“オフ” にします。
 - C) “OK” をクリックし、「PC を再起動」させます。
- ③ CCPM+を再導入すれば、終了です。

第2章 プロジェクトスケジュールを作成する

ここでは、CCPM+によるスケジュール作成に共通する手順について説明します。

I. プロジェクトスケジュールの作成は、次の手順に沿って行います：

1. タスクネットワークの作成

- A) MS プロジェクトで新規プロジェクトを起動します。
- B) MS-プロジェクトの省略時値の設定を行います。
- C) テンプレートを「名前をつけて保存」します。
- D) タスクマネージャ、タスク名、期間、先行（または後続）タスク、リソース名を入力します。
- E) WBS番号は、自動的に表示されます。階層式でWBSを表示するにはMS-プロジェクトのタスクインテント・ボタンを使用します。
- F) タスクをリンクします。省略時の設定は、先行タスク欄を使用する方法です。
- G) リソースの平準化を行います。

2. クリティカルチェーンの識別

3. プロジェクトバッファと合流バッファの挿入

II. スケジュールの確定

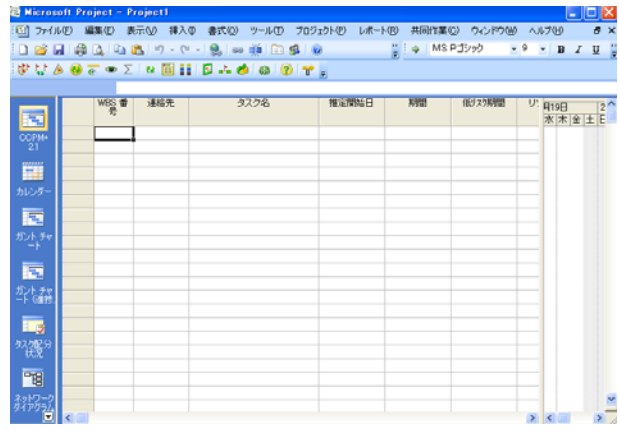
III. プロジェクトの実行と管理：

- 6. タスク状況入力：具体的には開始、終了、期間についての最新状態を入力します
- 7. リソースごとにタスクを選択し、優先順位順でソートします
- 8. タスクを実行する要員に割当てます
- 9. バッファ消費に関して、数値と図で示したレポートを確認します
- 10. バッファの回復を必要とする場合、回復計画の作成または回復計画の実施します。バッファ回復措置には、該当タスクの残業の承認、プロジェクトの残業の再スケジュールなど、いろいろあります。

第2-1章 タスクネットワークの作成

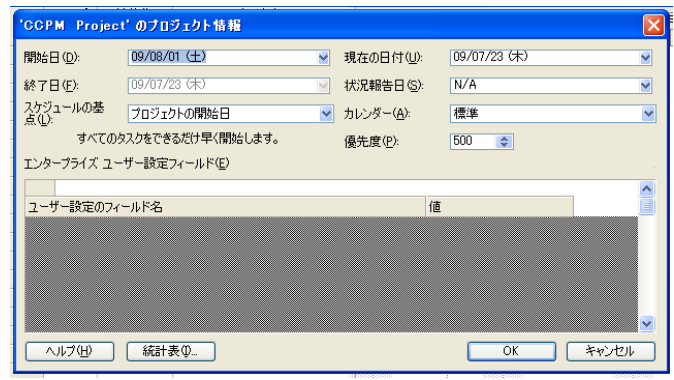
A) 新規プロジェクトを起動

1. MS-プロジェクトを起動すると、新しいプロジェクトファイルが自動的に開きます。
 - ◆ 保存されてるテンプレートから新しいプロジェクトを開く場合は、{ファイル} → {新規作成} をクリックし、{新しいプロジェクト} ウィンドウで、テンプレートをクリックし、開きます。



2. プロジェクトの開始日を設定します。

- ◆ {プロジェクトメニュー} → {プロジェクト情報} と開き、開始日を入力します。



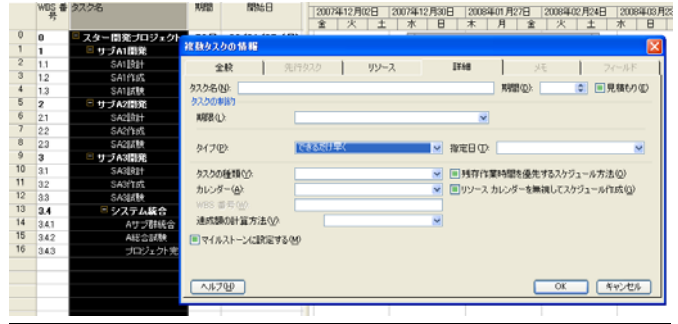
B) . MS-プロジェクトの省略時値の設定

- ◆ CCPM 計画に必要な省略時値の設定を行います。
- ◆ 右に挙げた設定について、以下に順を追って説明します。

MS-プロジェクト省略時値の設定

- ① タスク制約を {出来るだけ早く} を選択
 - ② 先行タイプを {終了-開始} を選択する
 - ③ {オプション} の設定
 - タスクタイプを「固定期間」とする
 - 残存作業時間を「オフ」に設定
 - タスクの分割を「オフ」に設定
 - ④ カレンダーは「標準」を使用する
- タスクネットワークを作成後、次の設定をする
- ⑤ サマリタスクの設定
 - ⑥ 終端マイルストーンを設定
 - ⑦ リソースの標準化の実行

1. {タスク情報} → {詳細} の「制約タイプ」を「出来るだけ早く」に設定します。



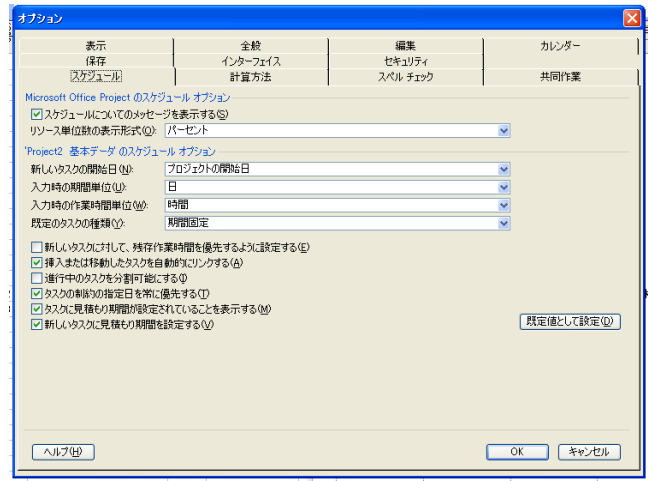
2. {タスク情報} → {先行タイプ} で、遅れなしの「終了-開始」を選択します。



3. ツール/オプション/スケジュールの画面で下記の設定を行います。

- ✓ タスクタイプを「固定期間」に設定
- ✓ 「残存作業時間の優先」をオフに
- ✓ 「タスクの分割」をオフにします。

これらは、何れも、MS-プロジェクトが自動的にタスク期間を変更してしまうことを防ぎます。

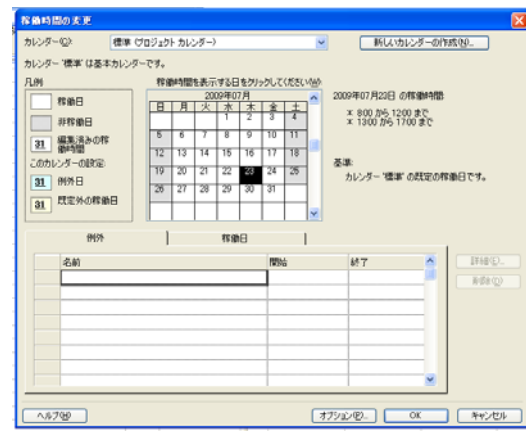


4. カレンダーとして「標準カレンダー」だけを使用します。

MS-プロジェクトでは、要員毎のカレンダーを設定することができますが、それは使いません。

作業時間の設定上の注意

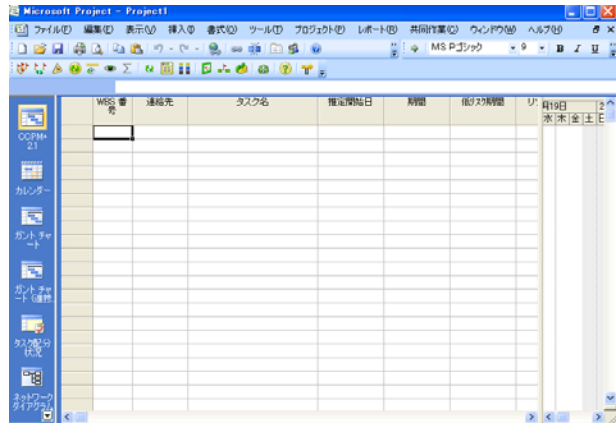
- ◇ 作業時間の設定は、{ツール} → {稼働時間の変更} 画面と、{ツール} → {オプション} → {カレンダー} の2箇所で行えます。この二つは、完全に同じ値でないと、後々の操作で予期しないエラーとなるので注意してください。



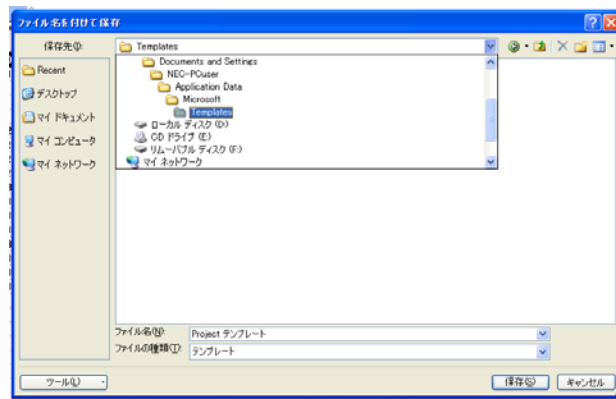
C) . テンプレートの保存

- ◆ 新しいプロジェクトに省略時値を設定したデータ<ただし、まだタスクネットワークは登録してない>を「テンプレート」として保存しておく、次に同じようなプロジェクトを作成するとき雛形として使用できます。 この場合、「省略時値」が設定されているので、テンプレートを使えば、すぐプロジェクトデータの入力ができます。

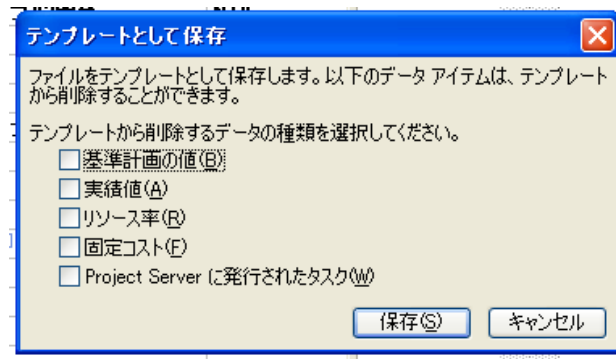
1. {ファイル} → {名前を付けて保存} を選択します



2. {名前を付けて保存} で、テンプレートの保存する場所を指定します
{ファイル名} ボックスにテンプレート名を入力します



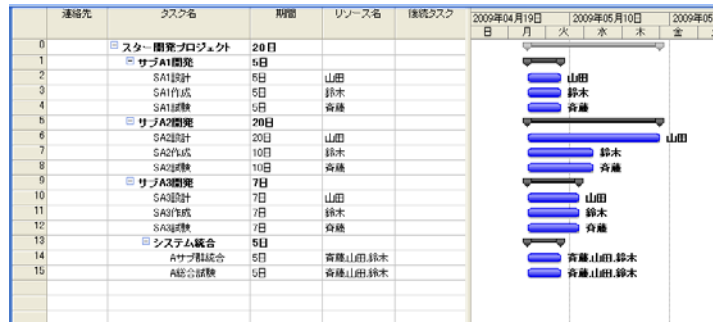
3. {ファイルの種類} ボックスの▼をクリックし、{テンプレート} を選択します。
保存するデータの種類を選択し、{保存} をクリックします。



D) . タスクデータの入力

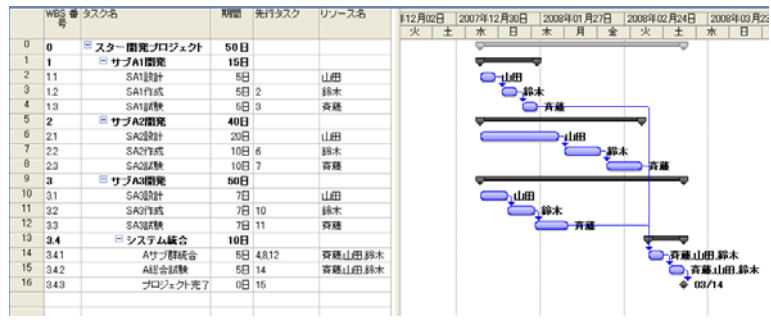
◆ タスクデータを入力し、タスクネットワークを作成します。

1. タスクマネージャ、タスク名、期間、リソース名を入力します。



2. タスクをリンクします。省略時の設定は、先行タスク欄を使用する方法です。右の例は、サマリータスクと終端のマイルストーンも表示されてます。

3. WBS 番号は、自動的に表示されます。



タスクネットワークの作成上の注意点

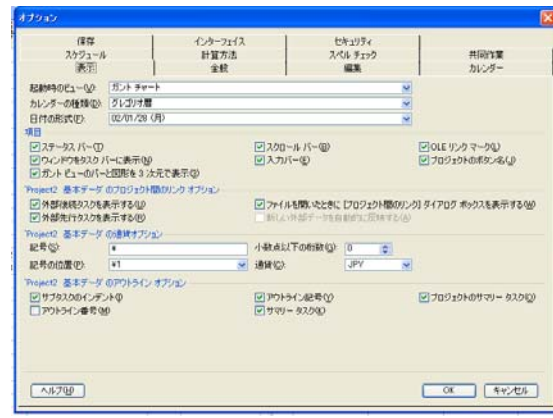
2. 要員について

- ① 各タスクに要員<チームも一つの要員です>を割当てます。要員は、タスク期間で設定された作業に、端数でなく専任<100%単位>で割当てます。
- ② 一つのタスクに複数の要員を割当てることも可能です。その場合、そのうちの一人は専任でなければなりません。20%以下の時間をタスクに割当てると「リソースの平準化」において、予期しない結果になることがあります。

3. タスクネットワークに“分割されたタスク”があってははいけません。“分割されたタスク”があると、リソースの平準化において、予期しない結果になります。もし、必要なら初めから二つのタスクにします。
4. タスクネットワークから外部に向けてリンクしてはいけません。もし外部へのリンクがあると、クリティカルチェーンの識別と合流バッファの挿入操作が正しく行われません。
5. CCPMによる平均タスク期間は、MS-プロジェクトの期間欄に記入してください。
6. サマリータスクから、あるいは外部からサマリータスクへリンクしてはいけません。
7. 繰り返しのタスクは、CCPM+では他のタスクと接続しない通常のタスクとして扱われます。繰り返しタスクを追加しなければならない場合は、クリティカルチェーンの識別およびバッファの挿入し、スケジュールが確定してから実施してください
8. 間接作業タスクは、一般にプロジェクト期間全体に存在する項目（プロジェクト管理、品質および安全の監視など）です。MS プロジェクトでは、リソース平準化の際にこうしたタスクを区別しません。間接作業のタスクを入れる必要がある場合、クリティカルチェーンの識別とバッファの挿入を完了してから実施してください
9. CCPM+の現行バージョンは1度に1つのプロジェクトしか扱えません。

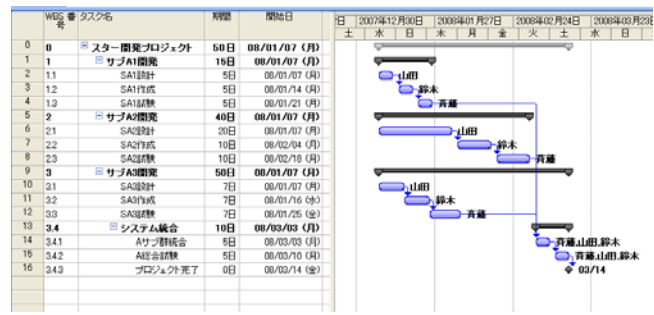
E) . サマリタスク、終端マイルストーンの設定

- プロジェクト計画で成果物を特定するためサマリタスクを設定します。
{ツール} → {オプション} → {表示} タグで「プロジェクトのサマリタスク」をチェックします。
- 大きいプロジェクトでは、プロジェクトを、ワークパッケージに分割してスケジュールし、実行します。

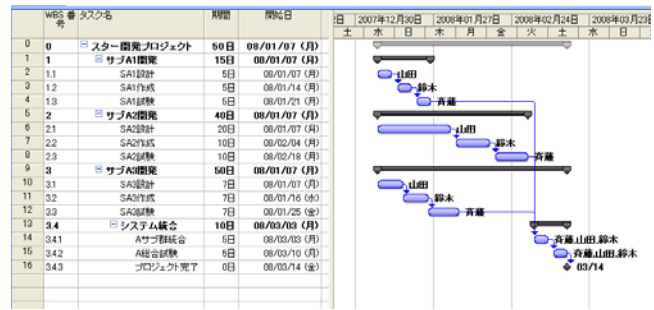


- タスクチェーンの最後にマイルストーンを設定します。

全てのタスクチェーンは、必ず最後のマイルストーンで終端します。



- 終端のマイルストーンとサマリタスクを表示した例です。

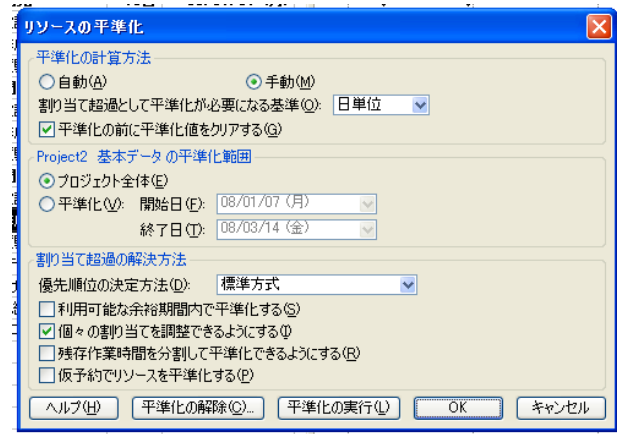


F) . リソースの平準化の実行

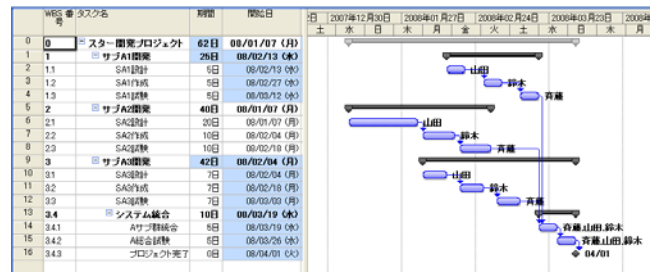
1. 「リソースの平準化」を行います。

- ✓ 優先順位の決定方法は「標準方式」を使用します。
- ✓ 「利用可能な余裕時間内で平準化」をオフにします。
- ✓ 「残存作業時間を分割して平準化できるようにする」は、オフにします。
- ◆ [要員の平準化] ダイアログの“割り当て超過として平準化が必要になる基準”オプションを適切に選んでいることを確認します。CCPM+は計算ではこの設定値を使用します。時間の加算単位は、プロジェクトで最も短いタスクの単位よりも短くしておかなければいけません

CCPM+のアルゴリズムでは、プロジェクト期間が最も短くなるような順序を選択しようとしています。



2. 「リソースの平準化」を行った結果の例です。



「リソースの平準化」のエラーについて：

- ① MS-プロジェクトはエラーを表示しないのに、CCPM+はリソースの平準化が正しく行われなかったとのメッセージを出す場合があります。これは、“リソースの平準化の実行”ボタンでなく“OK”ボタンをクリックしたか、平準化したリソースがない場合です。
- ② 要員は、タスク期間で設定された作業に、端数でなく100%専任でなければなりません。20%以下の時間をタスクに割り当てると「リソースの平準化」で、エラーになります。
- ③ あるいは、あるタスクの期間が整数でなく、選択した時間の単位での小数値をもっている場合です。このような場合、リソースシートを表示すると「平準化」がされなかったりリソースが赤字で表示されています。そのリソースをフィルタで選択し、問題の原因を解決する必要があります。
- ④ 時に、要員シートに示されている能力を超えて要員に負荷をかけた場合、エラーが生じることがあります。

第2-2章 クリティカルチェーンの識別

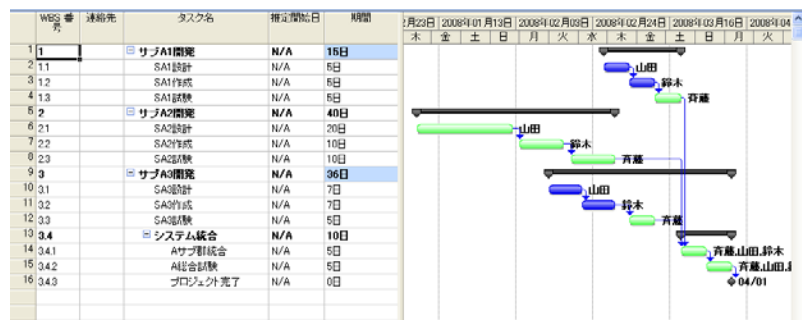
依存関係を持ったタスクのチェーンのうち、クリティカルチェーンというのは、タスクの依存関係とリソース配分の理由からそれ以上に短縮ができないチェーンのことです。言い換えると、プロジェクト完了に対して期間の制約、すなわち、プロジェクトのボトルネックです。クリティカルチェーンは自分で選択することも、CCPM+に自動で選択させることもできます。

□ クリティカルチェーン識別の操作

1. CCPM+|ツールバーで、[クリティカルチェーンを識別する]ボタンをクリックします



2. クリティカルチェーンの識別した例



クリティカルチェーン識別時のエラー

- ① MS-プロジェクトはエラーを表示しないのに、CCPM+はリソースの平準化が正しく行われなかったとのメッセージを出す場合があります。これは、“リソースの平準化の実行”ボタンでなく“OK”ボタンをクリックしたか、平準化したリソースがない場合です。
- ② あるいは、あるタスクの期間が整数でなく、選択した時間の単位での小数値をもっている場合です。このような場合、リソースシートを表示すると「平準化」がされなかったリソースが赤字で表示されています。そのリソースをフィルタで選択し、問題の原因を解決する必要があります。

■ アルゴリズムは次のような動作です。

1. CCPM+は、最初に、タスクネットワークの要件を満たしているかチェックします
2. CCPM+で作成したネットワークでは、できる限り終了マイルストーンへ近くなるように、各タスクは右側へ寄せられます（タスク、リソース両方の依存関係は考慮されます）。
3. 最後に、CCPM+はクリティカルチェーンを識別します。時には、同じ長さのチェーンを複数識別する場合があります。このとき CCPM+は、優先順位が最も高いものをクリティカルチェーンとして識別します。複数のチェーンが同じ優先順位レベルであった場合には、最後に識別したものがクリティカルチェーンとなります

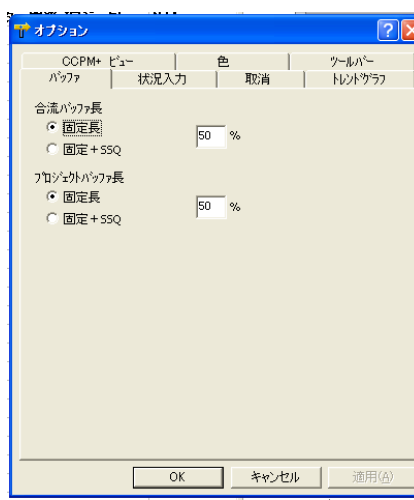
第2-3章 バッファの挿入

プロジェクトバッファで時間的な余裕を加え、バッファの納期よりも前にプロジェクトが完了する確率を高めます。

合流バッファにより、複数の先行タスクを持ったタスクの合流時の変動性の影響を低くします。CCPM+は、合流チェーンそれぞれにギャップを挿入し、合流チェーンがクリティカルチェーンへの合流前に完了する確率を高めます。

□ バッファ挿入の操作

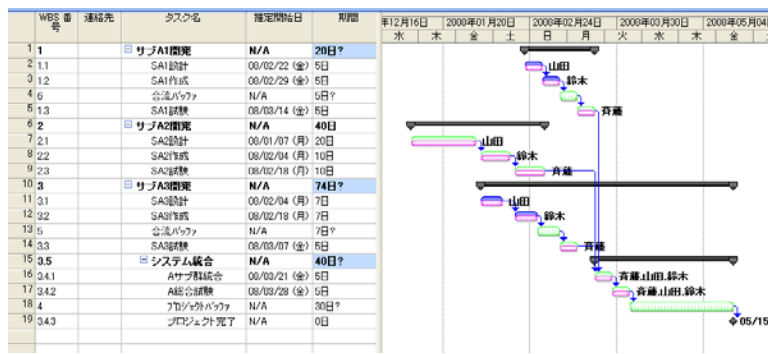
1. クリティカルチェーンに対し「バッファ」を挿入します。そのサイズは、オプション→バッファで指定します。省略時値はクリティカルチェーンの全長の半分です。



2. [CCPM+]ツールバーで、[バッファの挿入]ボタンをクリックします



3. 「バッファの挿入」行った例



- ◆ バッファはプロジェクトの進捗を支援します。
- ◆ CCPM+は、バッファに対し状況日付、超過値、消費率を計算します。
- ◆ 黒い横線がタスクとバッファに入り、進捗の度合を示します

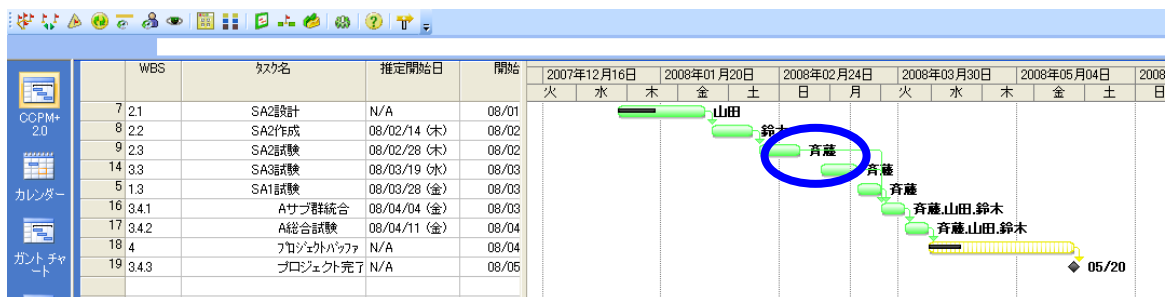
第3章 プロジェクトスケジュールの確定

第3-1章 プロジェクトスケジュールを最適化する

- 最初に得られるクリティカルチェーンは、通常、最適<最短>ではありません。
 - ◆ 不要なタスクがあって最短とは言えない
 - ◆ クリティカルでないタスクを含んでいることがよくある
- 最適化では、「識別する→タスクフローの短縮→戻る」のサイクルを繰り返し行い、納得できる納期の計画を完成します。

最適化の操作

- 下のタスクネットワークの例で、WBS 2.3の後のようなギャップを探してください。単一プロジェクトでは利用可能な要員を変更したり、ロジックを変えるとギャップが少なくなったり、排除できます。



- 多くのタスクが、続けて同じ要員を使用しているような部分を探してください。そのような場合、別の要員に変えることで、スケジュールを短縮することができます。
- クリティカルチェーン上のタスクは、本当に、プロジェクトの完了を遅らせても行う価値があるものかどうかを確認してください。もし、価値がないタスクであれば、それらがクリティカルチェーンに含まれないように調整してください。
- クリティカルチェーン上で、何か、要員の遅れが避けられるかどうかチェックしてください。そして、リソースの平準化の方法を変えることで、クリティカルチェーンを短くする方法があるなら、そうして下さい。

第3-2章 プロジェクトスケジュールの確定

- プロジェクトスケジュールの見直しが完了したら、**スケジュールを確定し**、プロジェクトの実行に移行します。
- プロジェクトスケジュールを**確定したら**、プロジェクト遂行中に突然障害が発生しても、**当初のスケジュールを変更せず**納期通りの完了を目指します
 1. スケジュールが確定したら、タスクやタスクの関係を変更してはいけません。クリティカルチェーンを識別し、バッファを挿入したら、そのスケジュールは固定して、プロジェクトを実行するのが基本です。
 2. プロジェクト遂行中に、発生した障害による進み／遅れは、予期した変動の範囲であれば、バッファで解決されます。
- しかし、どうしても変更が必要になった場合は；
 1. プロジェクトの変更が、プロジェクトバッファの**20%以下**であるなら、ガントチャートの下部に、それらのタスクを加えてください。そして、タスクの開始日を、“指定日以降に開始”というタスク制約のタイプにします。
 2. プロジェクトの変更が、合計でプロジェクトバッファの**20%以上**になる場合は、プロジェクトを計画し直します。

第4章 実行!

- CCPMによるプロジェクトの実行は、三つの要素からなっています。
 - ① プロジェクトに関与する要員のすべてが、リレー走者のようなタスクへの取り組み姿勢をとるように指導すること。
 - ② タスクの進捗が立ち往生した場合は、常に、追加の要員がサポートできること。
 - ③ バッファ回復の処置がとれること。
- これらのアクションを適切に行うためには、「進捗状況」を正確に、かつ、頻繁に確認することが必要です。

第4-1章 リレー走者のようなタスクへの取組

- リレー走者のようなタスクへの取り組み姿勢で成果を生み出すためには、すべての要員が、必ず、現在、取り組んでいる一つのタスクだけに専念して完了した後、別のタスクに移行する、という習慣の確立が必要です。
- 要員が取り組める準備の整っているタスクが複数ある場合は、タスクマネージャは、それらの中で、最大のバッファの消費を惹き起こしているタスクを選び、それに取り組むように指示します。
- 要員がそのタスクの作業を開始すると、バッファの消費は止まり、予定より早く終了すると、バッファが回復されます。もちろん、この間、他の未着手のタスクはバッファを消費し続けるでしょうが、このことは、取り組まれていないタスクの優先順位が高くなることを意味します。
- しかし、「現在のタスクを完了するまで、別のタスクへの取組みを開始してはいけない」という原則を常に忘れないでください。

第5章 タスク状況の把握

- 状況入力により、プロジェクトの進捗の把握が可能となります。 実際のタスク開始日、終了日は、通常、基本計画でスケジュールしたものと異なります。プロジェクトを管理するためには、次の項目を入力する必要があります。
 - タスクの実開始日およびタスクの実終了日 または
 - タスクの実開始日 および
消費期間と残日数<今後 タスク完了までに必要な日数>
- タスクの実績日や残日数の入力後、タスクバーに黒い横線が示されます。これにより、進行中のタスクと未開始のタスクを区別できます。
- CCPM+では"%完了"は使用しないので注意してください。 なぜなら重要なのは、プロジェクトチームを目の前のタスクに集中させ、管理する側が最も知りたいタスクの「完了期日」について最善の回答を提供するためです。

■ タスクの進捗状況入力の方針

- 進捗状況の入力の頻度は、下記のとおりとします。
 1. あるタスクが着手されたとき。
 2. あるタスクが完了したとき。
 3. 少なくとも、一週間に一回。
- 上で説明した頻度は、3 カ月程度の期間のプロジェクトの場合です。より短い期間のプロジェクトでは、進捗状況入力の間隔を短くし、例えば、毎日、進捗状況入力を行うか、もしくは、複数シフトで行っている数日とか数週間といったような短いプロジェクトでは、シフト終了のたびに、進捗状況入力を行うべきです。タスクの進捗状況入力の頻度は、プロジェクトのタスクの「平均タスク期間」と同じくらいにすると良いでしょう。

■ タスクの状況入力

1. 状況を入力するタスクに対応する、テーブルの該当の行、またはバーを左クリックします。範囲指定も可能です。該当の行が反転表示されます



2. [CCPM+]ツールバーの[状況入力]ボタンをクリックします。



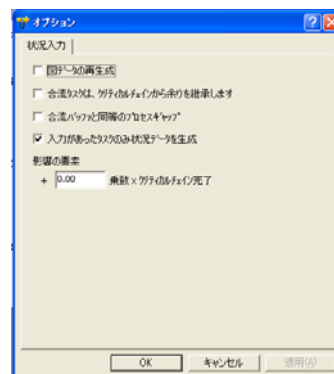
3. [状況入力] ダイアログが表示されます

- ◆ その場合、指定したタスクがすべてダイアログの下部に表示されます。その場所で1つをクリックすると、タスクの詳細が上部に表れ、情報を利用できます。



- 状況アイコンを押す前に複数のタスクを指定できます。その場合、指定したタスクがすべてダイアログの下部に表示されます。その場所で1つをクリックすると、タスクの詳細が上部に表れ、情報を利用できます。
- “実開始日”とは、タスクが実際に開始した日付のことで、“実終了日”は、実際にタスクが終了した日付のことで、人手で入力します。 その結果、“消費期間”フィールドに、タスクに費やされた日数をコンピュータが入力します。

- ◆ {状況入力}の画面にある[構成] ボタンをクリックすると、[状況入力オプション]ダイアログが表示されますが、普段はこのボタンを使用する必要はありません。
- ◆ この画面の説明は、第二部のCCPM+コマンドメニューの章を参照ください。



4. プルダウンカレンダーから、タスク開始日を選択します。

- ◆ CCPM+は、入力された実開始日をもとに、消費日数を計算します。



5. タスクがまだ完了していなければ、完了に要する残日数として必須の日数を入力します。 右の例では、その結果、2009年5月28日には終了するだろうと想定しています。

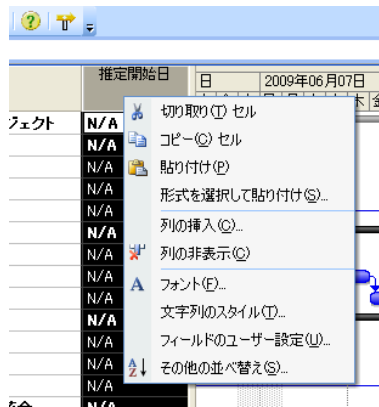


6. タスクが完了したら、実終了日を入力します。タスク7は5月28日に完了したとします
- ◆ タスクが完了すれば、“終了”フィールドが非活動となります。(CCPM+は、“終了”フィールドに日付が入っていることから、「タスクが完了した」と見なします。

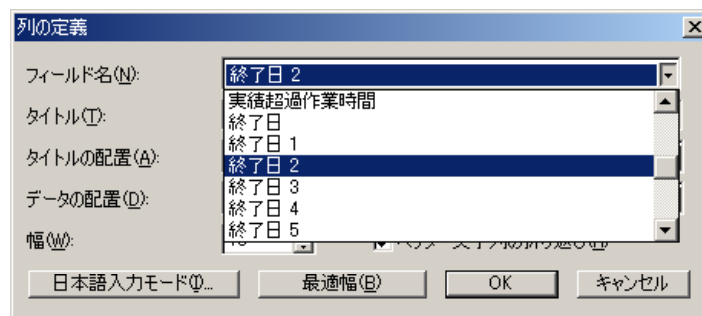
実プロジェクト		実開始日	2009/05/01	消費日数	20	
		実終了日	2009/05/28	残日数	0	
ID	WBS	タスク名	実開始日	実終了日	消...	残...
7	2.1	SA2設計	2009/05/01	2009/05/28	20	0

■ 誤って日付を入力した場合の修正方法:

- 上に述べた「進捗データの入力操作」で、進捗データを入力後に、入力した期日の間違いに気づいた場合、以下の操作を行います。
- [シート]ビューの、列のタイトル部のどこかで右クリックします。[挿入]メニューで“列の挿入”を選択します



- [列の定義]ダイアログで、スクロールリストから“終了日2”を選びます。



- [OK]をクリックします。“終了日2”列がシートに表示されます

	推定開始日	CCPM Actual Finish Date	期間	2009年
ト	N/A	N/A	50日	日 月
	N/A	N/A	15日	
	N/A	N/A	5日	
	N/A	N/A	5日	

- データの修正を必要とするタスクに対応する“終了日2”列の欄には、誤って入力した日付が入っています。それを削除します。次に、[状況入力]ダイアログをもう1度呼び出し正しい実日付を入力します。
- 正しい実日付の入力後、[OK]をクリックします。するとタスクを表すバーは、その一部または全部に黒い横線が入っています（バッファにも同様に線が入っているかもしれません。色は変えられます）。「合流バッファとプロジェクトバッファの挿入」ならびに「状況日付、超過値、消費率」を参照してください

第6章 タスクの実行指示

- タスクマネージャは、下記に述べる方法で要員が担当する作業を決定します。
- CCPM+は、タスクの優先順位を示す“バッファの影響”欄があります。この欄の情報は、タスクによって生じつつあるプロジェクトバッファの影響を%で示しています。
- クリティカルチェーンのタスクの初期の“バッファの影響”の値はゼロ<0>です。この時、合流チェーンのタスクの“バッファの影響”の値は“負”になります。”バッファの影響”の値は、合流バッファの長さをプロジェクトバッファの長さで除した%の値です。
- 完了したタスクの“タスクの影響”値は、-100ですから、ソートすると、リストの最下位に表示されます。最初に、未完了のタスクに対しフィルタを実行します。

■ 優先順位付けしたタスクリストを作成する方法

1. タスクマネージャ毎のデータを選択するため「連絡先」欄で右クリックし、その他の並べ替えを選択します。

WBS 番号	連絡先	タスク名	推定開始日	期間	低リスク期間
0		切り取り(C) セル	N/A	94日?	0日
1		コピー(C) セル	N/A	20日?	0日
1.1		貼り付け(E)	08/02/22 (金)	5日	0日
1.2		形式を選択して貼り付け(S)	08/02/29 (金)	5日	0日
4		列の挿入(I)	N/A	5日?	0日
5		列の非表示(O)	08/03/14 (金)	5日	0日
2		フォント(F)	N/A	40日	0日
2.1		文字列のスタイル(D)	08/01/07 (月)	20日	0日
2.2		フィールドのユーザー設定(U)	08/02/04 (月)	10日	0日
2.3		その他の並べ替え(S)	08/02/18 (月)	10日	0日
3		他の並べ替え(S)	N/A	74日?	0日
3.1		SAB作成	08/02/04 (月)	7日	0日
3.2		合流バッファ	08/02/18 (月)	7日	0日
5		合流バッファ	N/A	7日?	0日
1.3.3		SAB試験	08/03/07 (金)	5日	0日

2. 「並べ替え」ダイアログボックスで「連絡先」を選択します。

並べ替え ✖

最優先されるキー(S) 並べ替え(Q)

連絡先 昇順(A)

降順(D)

2番目に優先されるキー(T) 昇順(O)

降順(N)

3番目に優先されるキー(B) 昇順(Q)

降順(G)

タスク ID を付け替える(M)

アウトライン構造を維持する(K)

キャンセル

リセット(R)

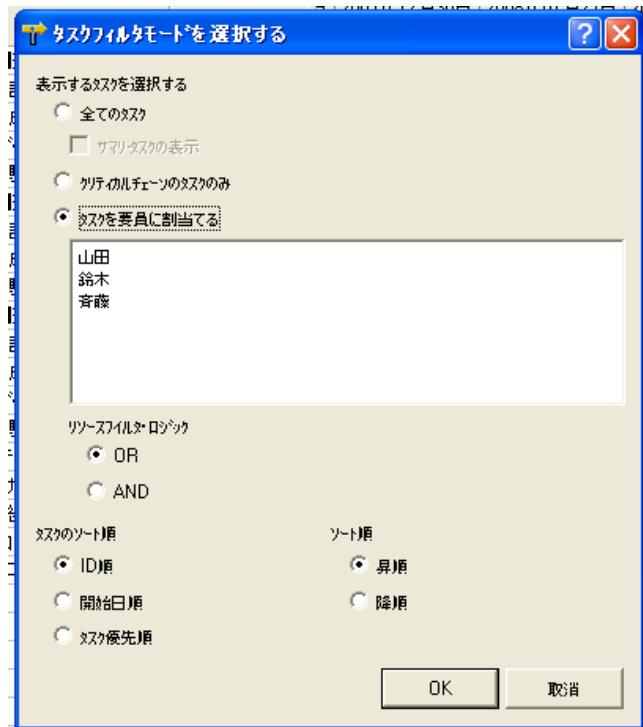
ヘルプ(H)

3. タスク優先順位でソートするためCCPM+のフィルタ機能を使用します。



4. CCPM+は、要員毎にタスク優先度リストを提供します。これは、要員が「次に、どのタスクに着手したらよいか」を決めるためです。

- ◆ 下図に示すタスクの優先順位フィルタを使って、次に着手するタスクを選択します。



注：複数プロジェクト環境では、上記以外の追加の情報が必要になります。

第7章 CCPM+の報告書

- CCPM+では、下記の3種の報告書を提供しています。
 - ①. プロジェクト状況報告書
 - ②. バッファ消費報告書
 - ③. トレンドグラフ
- その他、MS-プロジェクト®が提供する報告書も全て使用できます。

■ 報告書の説明

①. プロジェクト状況報告書

- このレポートは主にプロジェクトの状況に関する統計情報を表示するもので、ヘッダー、全般、タスク、バッファに分けて状況を表示します。
- [CCPM+]ツールバーで、[プロジェクト状況報告書]ボタンをクリックします



- 次の報告書が 表示されます。

CCPM+プロジェクト状況報告書	
Project 基本データ	
報告日: 2009/06/20	
概要	
実開始日:	N/A
バッファされた完了日:	2009/09/14
推定完了日:	2009/08/03
タスク	
タスクの数:	11
完了タスク数:	0
クリティカルタスク数:	7
完了クリティカルタスク数:	0
クリティカルチェーン完了率:	0%
バッファ	
FBの数:	2
正常状態のFB数:	2
注意状態のFB数:	0
危機状態のFB数:	0
FBの状況:	正常
バッファ消費率(%)	0%

②. バッファ消費報告書

- このレポートには、バッファ消費に関してプロジェクトマネージャへ警告する報告書です。プロジェクトバッファおよび合流点に達していないすべての合流バッファについて、結果を一覧にします。合流点とは、バッファから対応のクリティカルタスクへとリンクされている点のことです。対応するタスクが開始している場合（実開始日に値が入力されている。）、CCPM+は合流点を過ぎたと見なします。

- [CCPM+]ツールバーで、[バッファ消費報告書]ボタンをクリックします。



- 次の報告書が表示されます。

CCPM+バッファ消費報告書

Project 基本データ

報告日: 2009/06/20

バッファWBS	バッファ名	バッファ消費率 %	バッファサイズ	チェーン完了率 %	比率	活動中タスクのWBS#
4	プロジェクトバッファ	0	31	0	N/A	2.1
5	合流バッファ	0	7	0	N/A	3.1
6	合流バッファ	0	5	0	N/A	

③. トレンドグラフ

この報告書はプロジェクトバッファの“トレンドグラフ”を表示します。

- CCPMでは、プロジェクトの進捗は、**バッファの残り**と、**これから完了しなければならないタスクの実行に必要な時間との比率**で示されます。
- この比率は、「**作業完了率比バッファ消費率**」と呼ばれ、「**トレンドグラフ**」で示されます。
- タスクの完了が遅れると、その遅れによりバッファが消費されます。これはプロジェクトの予定通りの完了に対する潜在的な脅威です。

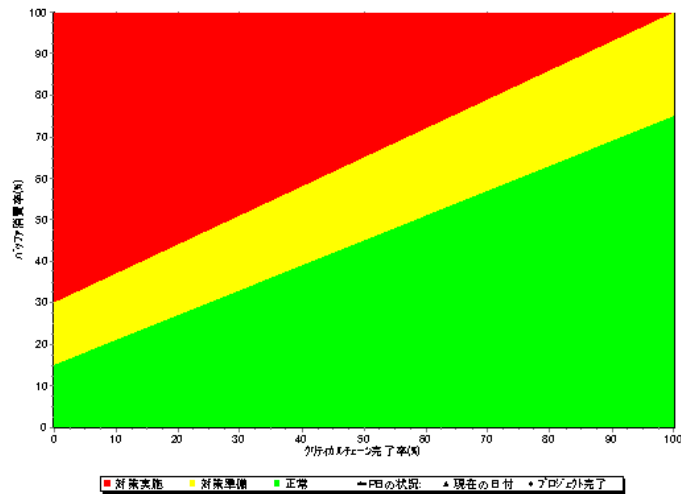
■ 操作

- [CCPM+]ツールバーで、[バッファ消費報告書]ボタンをクリックします。



- 次の報告書が表示されます。

CCPM+のトレンドグラフ
Project 基本データ
報告日: 2009/08/20



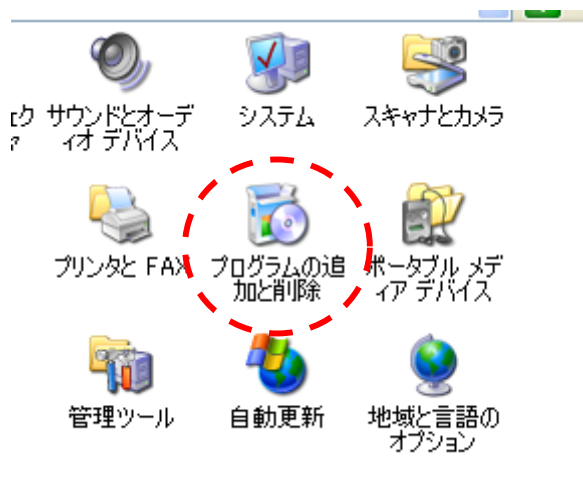
- 注意：トレンドグラフで示される“進捗”は、「完了したタスク」のみです。仕掛中<開始したが終了してない>タスクは、含まれませんので注意して下さい。

第 8 章 CCPM+の導入手順

- CCPM+の導入は、MS-プロジェクトが導入されていることが前提です。
- CCPM+が導入できるPCの環境は、下記の通りです。
 - Windows-XP、または、Vista
 - MS-プロジェクト／2003、または、2007

A. 現在のCCPM+を「削除」する。

1. 新しいCCPM+を導入するとき、現在導入されている古いバージョンのCCPM+を“削除”する必要があります。Windowsのコントロールパネルから「プログラムの追加と削除」を使用して削除します。



2. 削除するCCPM+を選択し {削除} ボタンをクリックします。

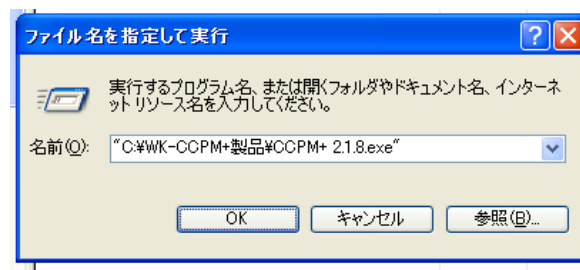


3. そのCCPM+のアンインストーラが立ち上がりますので、削除の操作を行います。



B. 新しい CCPM+を導入する。

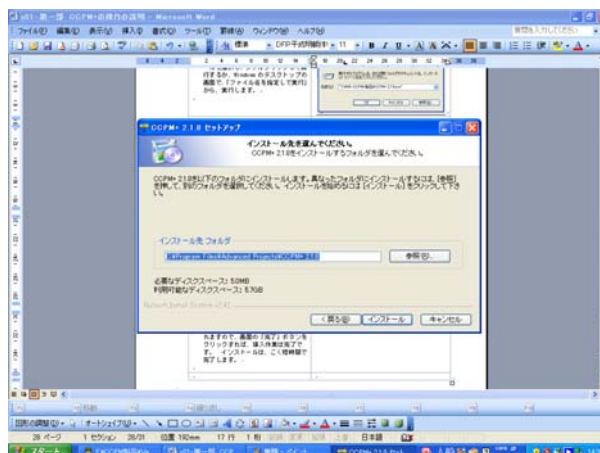
1. CCPM+を導入する場合、CCPM+のモジュールを選択し、ダブルクリックして実行するか、Windows のデスクトップの画面で、「ファイル名を指定して実行」から、実行します。



2. 次に、「ライセンス契約書」が表示されますので、「同意する」をクリックします。



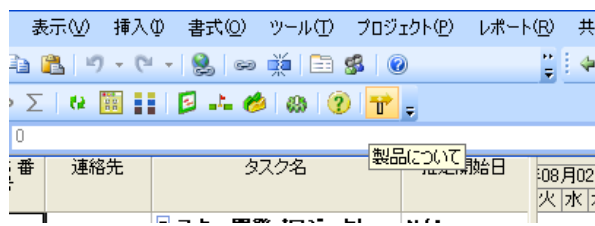
3. 次の画面で、「インストール」をクリックすると、「CCPM+のセットアップウィザードが完了しました」と表示されますので、画面の「完了」ボタンをクリックすれば、導入作業は完了です。インストールは、ごく短時間で完了します。



C. ライセンス登録手順

- はじめに導入したCCPM+は、60日間無料で使用できますが、60日間過ぎると使用できなくなります。 継続して使用して頂くためには、CCPM+をご購入頂き、その後、以下の手順でライセンスキーを設定して頂く必要があります。
- ライセンスキーは、一度設定されますと、導入したPCでは、永続的に使用して頂けます。
- PCのハードウェアの故障や、リース切れによるPCの入れ替えには、別途手続きが必要です。 その時は、弊社までお問い合わせください。

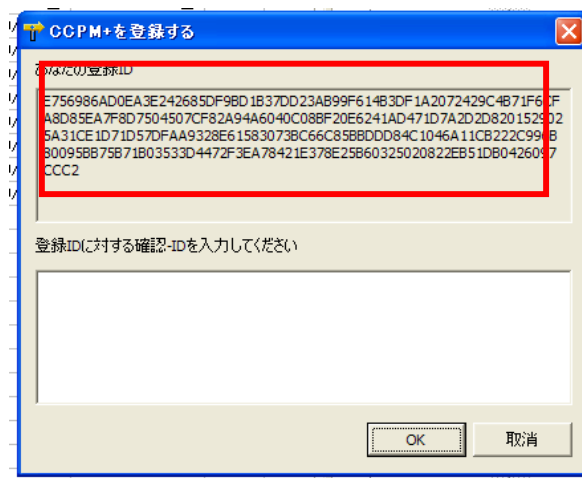
1. CCPM+のメニューから、「製品について」を選択します。



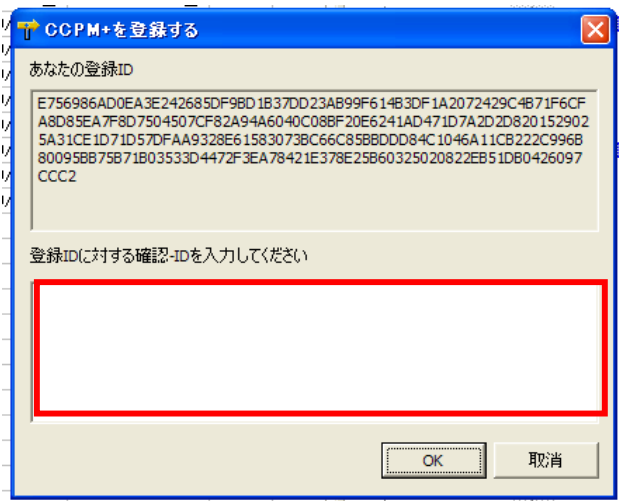
2. 次いで表示される「製品について」の画面で、「登録する」ボタンをクリックします。



3. 「登録をする」ボタンをクリックすると「CCPM+を登録する」画面が表示されます。
 - ◆ 前記の画面で「あなたの登録 ID」の窓に表示されている“テキスト”をコピーし、メールに貼り付け、弊社宛<ccpm@msi-jp.com>に送付してください。



4. 弊社は送付頂いた<文字列>を直ちに CCPM+の開発元におくり、「確認-ID」の発行を要請します2～3日ほどで、開発元から「確認-ID」が送られてきますので、その ID を、あなた宛にメールでお知らせします。
- ◆ 「確認-ID」が、メールで送られてきましたら、それをコピーし、3項で示す画面の下の窓<あなたの登録 ID を再度入力する>の窓に貼り付けます。そして、OK ボタンをクリックします。すると「登録されました」メッセージが表示され、導入した CCPM+が使用できるようになります。



第9章 終りに

- CCPM+の操作に必要な「CCPM+コマンドメニュー」と「CCPM+オプション」の詳細については、「CCPM+機能と操作の説明書」〈第二部〉を参照ください。

以上